公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信　2017年4月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記
（特集・会員を増やすための探鳥会⑥）・・・1
◆諏訪支部からの情報 ・・・・・・・・・10
「落鳥の命を教材に活かす！ 後編」
◆日本野鳥の会千葉県のリーダーにインタビュー・・・・・・・・・・・・・・11
「千葉公園ビギナーズ探鳥会でお試し入会が多かった理由とは？」
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・13
（2017年2月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・15
・2016年度　探鳥会リーダーズフォーラム東日本報告書（概要版）
・2017年度「野鳥の子育て応援（ヒナを拾わないで）キャンペーン」が始まります
・バードウィーク全国一斉探鳥会を広報します
・2017年「ツバメのねぐら入り観察会」の情報をお寄せください
・連携団体（支部等）向け卸販売について
◆今月の購読数・・・・・・・・・・・・・・・22
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・23
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・23

◆探鳥会訪問記（特集・会員を増やすための探鳥会⑥）

10月末から、全国18支部と開催を続けてきました2016年度の「会員を増やすための探鳥会」が3月19日で終了しました。

今月号では、2月25日～3月19日までに3ヶ所で開催された探鳥会（表1）についてご報告します。

表1.

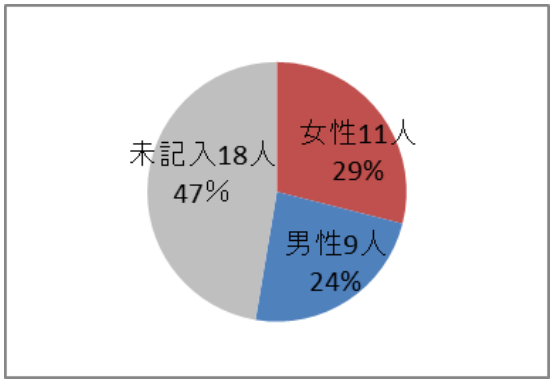
	開催日	支部名	開催場所
No27	2017/2/25（土）	栃木	勝山公園
No28	2017/2/26（日）	熊本県支部	下江津湖
No29	2017/3/19（日）	熊本県支部	坪井川緑地公園

2016年度は、雨天中止となった1ヶ所を除き、計28か所で開催、全体で1,023名の方にご参加いただき、そのうち会員でない方は828名（全参加者の81%）、お試し入会した方は115名（会員ではない方の14%）でした。結果一覧を8・9ページに掲載しています。

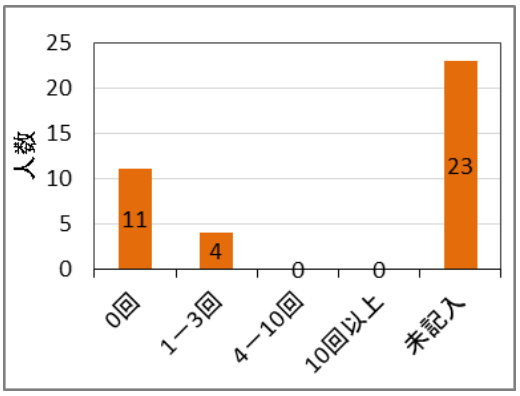
氏家・勝山ビギナー探鳥会　（栃木）

【日時】2017 年 2 月 25 日（土）9 時 00 分～11 時 00 分
【天候】晴れ
【場所】勝山公園（栃木県さくら市）
【参加人数】38 名（うち一般参加者 34 名）
【リーダー】7 名
【お試し入会】3 名（一般参加者のうち約 9%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook、支部 HP
　＜メール＞一斉メール送信（1/11、12 関東、福島、静岡、山梨 22,886 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（11/20 から全国約 55,000 名に送付）、さくら市ミュージアム

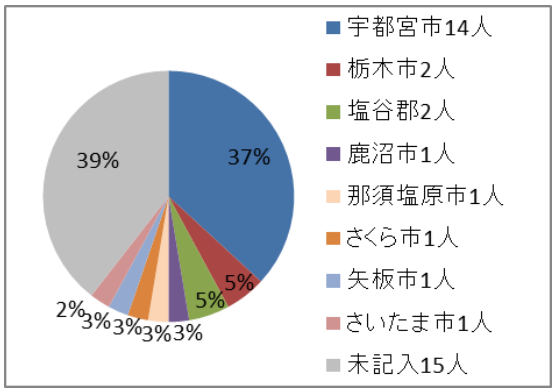
【性別】



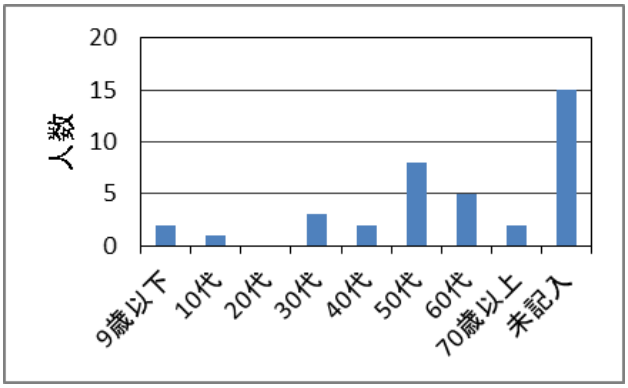
【バードウォッチングの経験回数】



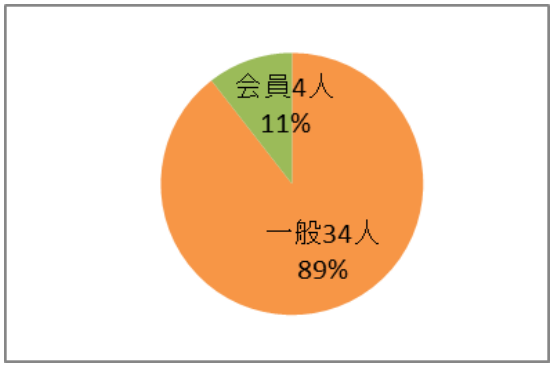
【お住まい】



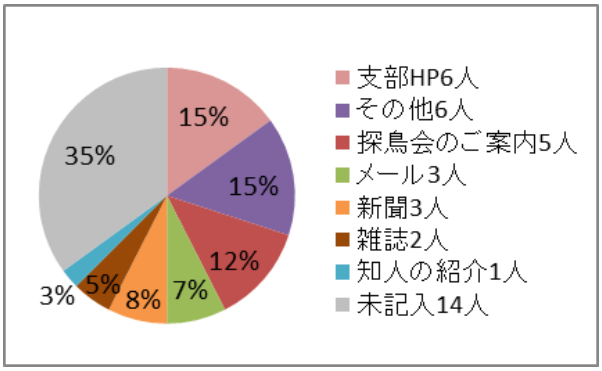
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

勝山公園は、宇都宮から約 15ｋｍ北に位置するさくら市の公園です。鬼怒川の流れや日光連山と高原山を一望できる景色は、栃木県景勝百選の地に指定されています。

ビギナー探鳥会ということで、通常の探鳥会よりも短いコースを編成し、２班に分かれて野鳥観察を楽しみました。

■探鳥会の様子

この日の最低気温は氷点下を下回る寒さでしたが、風もなく天候にも恵まれ、日向では暖かい陽気に包まれる絶好の探鳥会日和でした。

私が参加した班のコースは、まず勝山城跡地となる広場へ向かいました。この広場を取り囲む落葉した樹林には、ハシボソガラスの群れが、時に鳴き交わし、時には一斉に飛び立つなど、賑わいを見せていました。

リーダーの話では、

「ここは野鳥の往来が多い場所で、探しにいかなくとも待っていれば鳥の方から勝手にやって来ます。」

とのことでした。早速１羽、鳥が飛来し、一斉に観察が始まりました。はじめて参加された方の中で、鳥を見つけるのがとても早い旦那様がいらして、こんなやりとりで回りをなごませてくれました。見つけられない奥様が

「どこ？」

とご主人に聞くと

「そこじゃないよ、あそこだよ」

と答え、

「ここ？」

と聞き直せば

「違う違う、あっちだって」

「あっちってどこよ」

「そこだよ」

すっかり場もなごみ、周りの方もそのご夫婦にひっぱられて、うまいこと鳥を見つけることができるようになっていました。ここではリーダーのおっしゃる通り次々と野鳥が飛来し、ヒヨドリだけでなく、ジョウビタキ、ツグミ、ビンズイ、コゲラ、ヤマガラ、カワラヒワを観察することができました。初心者は移動しながら鳥を観察することに慣れていないので、このように鳥が多いポイントで定点観察を行うこともひとつの工夫だと思いました。

場所を移し、桜の植えられた河近くの切り立った高台に到着しました。眼下には鬼怒川の穏やかな流れが広がり、冬の澄みきった空気の遥か奥には、日光連山と高原山の残雪が白く輝いていました。ここでは川で採餌するサギを観察する目論見だったのですが、あいにく姿が１羽も見えません。それでもモズやイソシギ、イカルチドリ、セグロセキレイなど、サギに比べるとかなり小さい鳥がいるにはいましたが、双眼鏡ではなかなか厳しい距離です。皆苦戦していたところ、背後のすぐ近くにある桜の木に、こっそりとエナガがやって来ていました。その鳴き声にいち早く気づいたリーダーが参加者へ伝えます。すぐ目の前にいるものですから、肉眼でその可愛らしい姿をよく観察することができました。

勝山公園の麓に場所を移して、芝生がきれいに敷かれたゆうゆうパークとの境界を流れる用水路で、コガモやカルガモを観察しました。そのとき、小さな青い鳥が一瞬見えましたが、弓矢のように川向こうへ飛んで行き、あっと言う間もなく見えなくなってしまいました。ここではカワセミが期待されており、きっとカワセミではないかということでしばらく探しましたが、残念ながら出没はこの一度きり。うしろ髪を引かれる思いのなかで、ここで集合場所へ移動することになりました。

▲観察の様子

■まとめ

初心者が観察しやすいカモやサギが少なかったのですが、参加者のほとんどはビギナー探鳥会のリピーターとのことで、小鳥でも観察できているようでした。

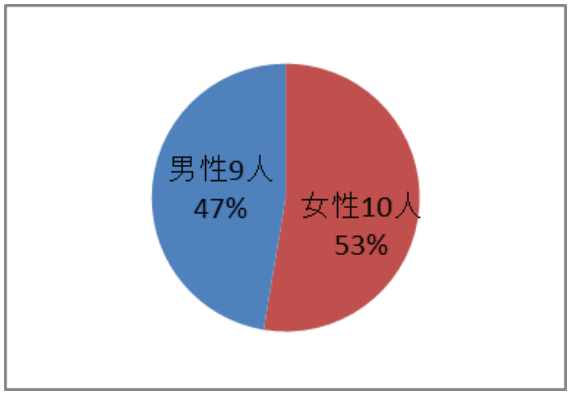
また、リーダーの皆さんが参加者に積極的に話しかけており、気軽に話しやすい雰囲気の中で観察を楽しむことができました。

（会員室／三浦岳志）

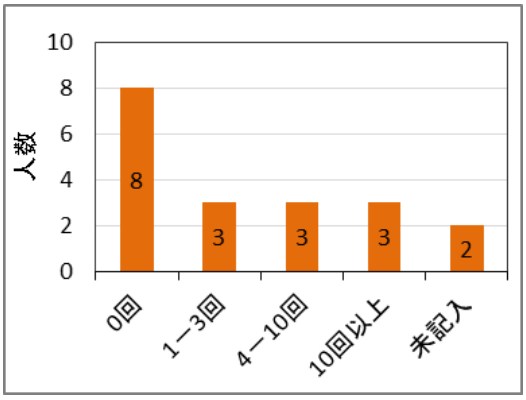
下江津湖初心者歓迎バードウォッチング　（熊本県支部）

【日時】2017 年 2 月 26 日（日）9 時 30 分～12 時 00 分
【天候】晴れ
【場所】下江津湖（熊本県熊本市）
【参加人数】39 名（うち会員向け探鳥会 20 名、ビギナー向け探鳥会 19 名）
【リーダー】5 名
【お試し入会】3 名（一般参加者のうち約 17%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 Facebook、支部 HP
　＜新聞＞毎日新聞（掲載日不明）、熊本日日新聞（掲載日不明）

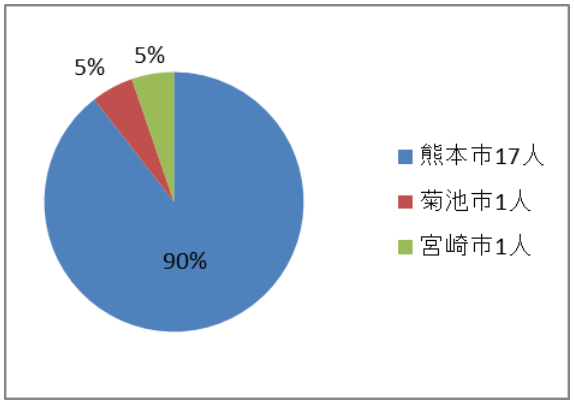
【性別】



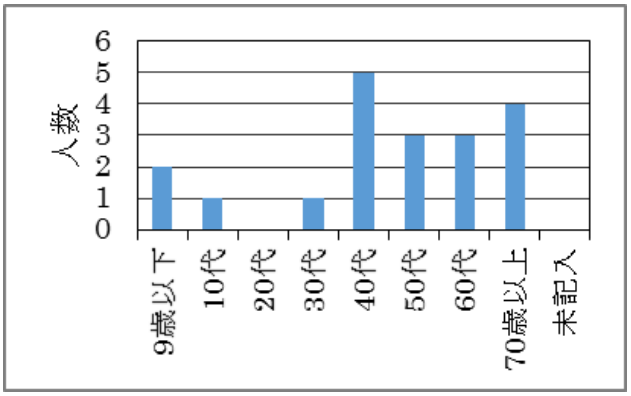
【バードウォッチングの経験回数】



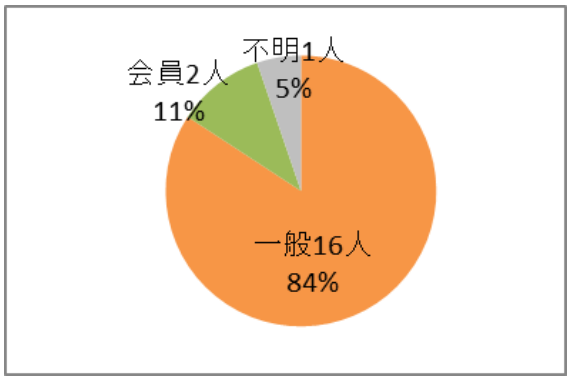
【お住まい】



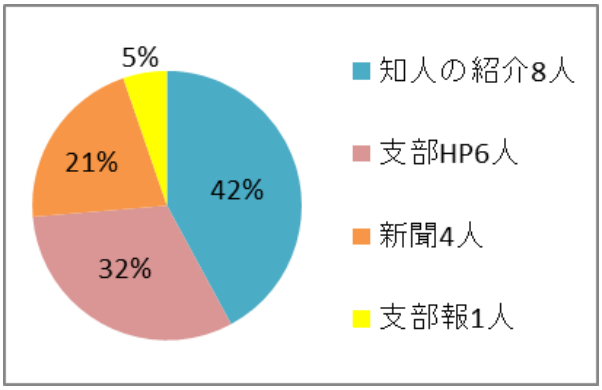
【年齢】



【会員/一般】



【何で知ったか】



※グラフはビギナー向け探鳥会の名簿のみ集計しています。

財団職員が参加できなかったため、熊本県支部の原口さんから報告をいただきました。

■探鳥会のコースの概要

熊本県支部の今年最初の「会員を増やすための探鳥会」は、熊本市内の下江津湖での開催でした。江津湖は湧き水で有名な水前寺公園の水が流れ込み、湖の底からも大量の地下水が湧き出ている、大変水質の良い湖です。熊本市の中心部から近い場所ながら、冬の水鳥を沢山観察できる自然豊かな公園です。実は昨年の熊本地震で、最も被害の大きかった益城町の中心部からも直線で6～7Kmと大変近い場所にあります。幸い集合場所の広木地区公園の建物等には被害がなかったものの、探鳥会のコースになっている岸辺の道には崩れて工事中の箇所がありますし、近くの動植物園は閉鎖が続き、探鳥会の前日にようやく一部分だけが再開されたばかりでした。

■探鳥会の様子

今回の探鳥会は、毎年実施している、一般会員さん向けの探鳥会も兼ねています。昨年熊本県支部に発足させた「会員加入促進委員会」のメンバーから5名がリーダーとして参加。うち一人が一般会員の案内を担当し、残りの4人でビギナーを5～6人ずつの班に分けて鳥の観察を行うことにしました。リーダーは開始1時間前に集合し、配布物の準備やスケジュールの確認を行いました。

開始30分くらい前から、次々と参加者が来られ始めました。受付をして必要な方には双眼鏡をお貸しし、手の空いたリーダーが取り扱いの説明を行いました。開始時間となったので、挨拶の後、最初にビギナー探鳥会のコースやスケジュールの説明した後、「今日見たい鳥」を写真を使って丁寧に説明し、3つに班分けしてそれぞれスタートしました。コースは、下江津湖の一番南側に位置している集合場所から、湖の左岸に沿って北上し、動植物園の手前で折り返すというものです。広木地区の西側には広い芦原があり、オオジュリンやツリスガラがいるのですが、小鳥はビギナーには見せ方が難しいので、あえて芦原には立ち寄らず、カモを中心とした見やすい鳥を観察してもらうことにしました。

湖の岸辺に到着すると、まず目の前に沢山いるオオバンとヒドリガモを見て貰いました。一般会員組のカウントでは、オオバンが300羽、ヒドリガモが550羽で、ここでの2大勢力です。ヒドリガモの雄雌の色の違いや、オオバンが似ているけどカモではないことなどを大きめのイラストも使いながらお話ししました。ここではカンムリカイツブリが潜ったり泳いだりしている所が見られましたし、少し遠かったのですが、クロツラヘラサギ5羽も観察し、世界的には大変貴重な種類である事も説明しました。それから湖の岸辺を歩きながら、道々出てくる鳥を観察して行きました。動植物園の手前で折り返して同じ道を通って集合場所に戻り、班ごとに鳥合わせを行いました。最後にビギナー参加者全員に集合していただき、野鳥の会のこと、会員制度のこと、お試し会員のことなどを説明し、アンケートを記入して頂き解散しました。解散後お試し会員希望の方には残って貰いましたが、3人がお試し入会されました。

■探鳥会を終えて

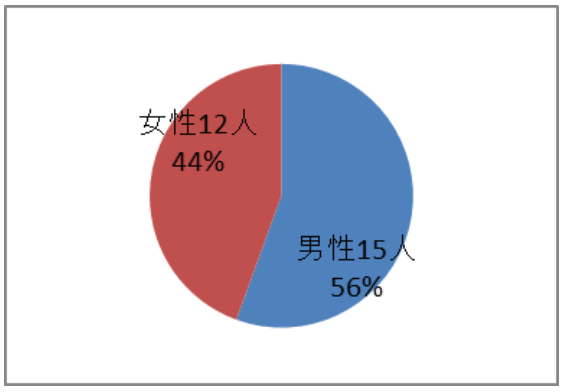
ビギナーの参加者は19名でしたが、ビギナー探鳥会を知ったのは、①知人、会員から聞いた：8人。②熊本県支部のホームページ：6人。③新聞・タウン情報誌：4人。④支部報：1人となっており、いろんなルートがあることが分かりました。やはりビギナー参加者を増やすには他方面からの呼びかけが重要だと感じました。印象に残った鳥では、クロツラヘラサギとカンムリカイツブリを上げた方が多く、スタート直後に見た鳥の印象が強く残るようです。逆に後半は集中力が無くなってくるようで印象に残る鳥が少ないようです。後半、間延びさせない工夫も必要だと思いました。

（熊本県支部／原口研治）

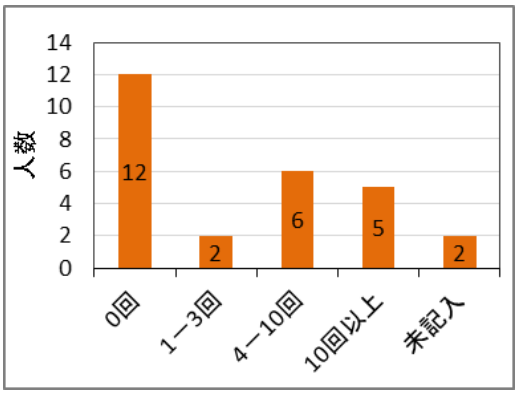
坪井川緑地公園バードウォッチング（熊本県支部）

【日時】2017 年 3 月 19 日（日）9 時 00 分～12 時 00 分
【天候】晴れ
【場所】坪井川緑地公園（熊本県熊本市）
【参加人数】40 名（うち会員向け探鳥会 13 名、ビギナー向け探鳥会 27 名）
【リーダー】5 名
【お試し入会】4 名（一般参加者のうち約 15%）
【広報】
＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook、支部 HP
＜メール＞一斉メール送信（3/10 熊本 244 名に送信）
＜新聞＞朝日新聞（掲載日不明）、熊本日日新聞（掲載日不明）

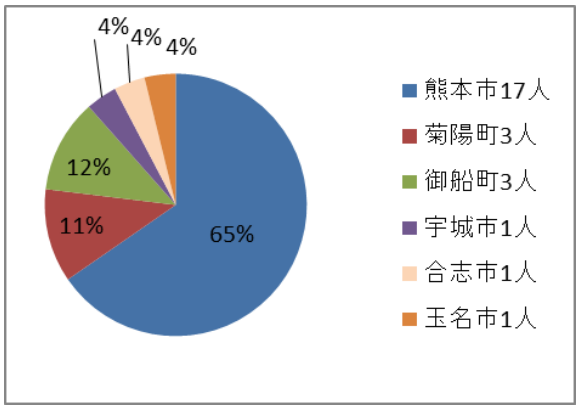
【性別】



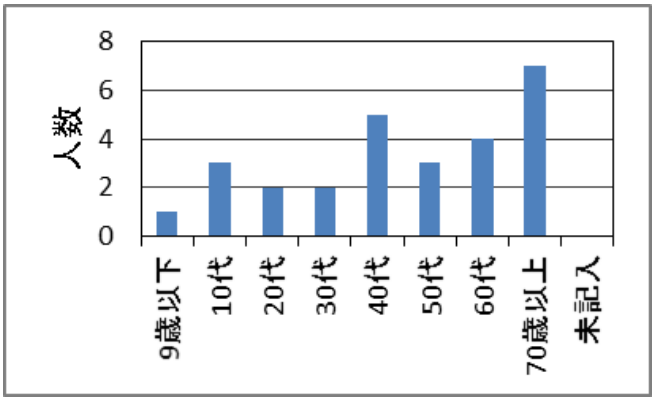
【バードウォッチングの経験回数】



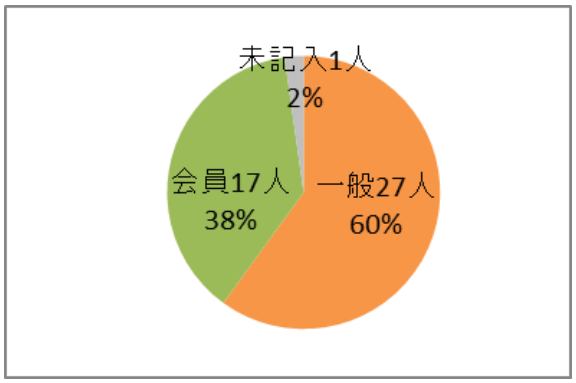
【お住まい】



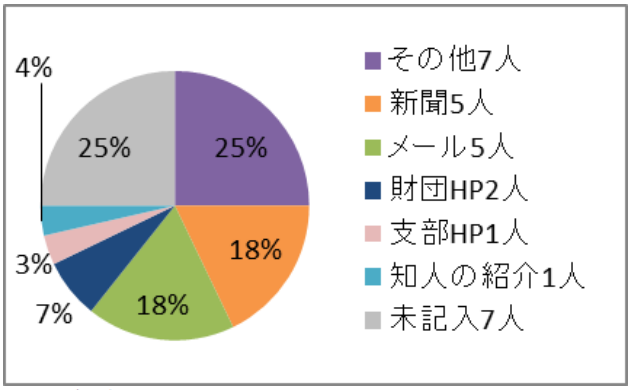
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



※グラフはビギナー向け探鳥会の名簿のみ集計しています。

■探鳥会概要

街中にはまだ所々地震の爪痕が見られましたが、探鳥会には明るく元気な支部の皆さんの姿がありました。

支部では探鳥会を日頃から新聞やタウン誌に掲載しており、初心者歓迎探鳥会も定期的に開催してきました。今回の開催場所の坪井川緑地公園は、熊本市街地を流れる坪井川の遊水地に併設された公園です。探鳥会は、ヨシ原環境の遊水地の周囲約 1.5km を周るコースでした。

今回は、定例探鳥会と合わせて企画され、ベテランと初心者はコースを別に開催されました。

■探鳥会の様子

陽射しが暖かく、春の気候の中での開催となりました。道端にはつくしが芽を出し、ウグイスのさえずりも賑やかに聞こえています。この日の参加者数は、一般 27 名を含む計 40 名。親子連れから 20 代、30 代、ご年配の方まで幅広い層の参加がありました。

受付から開始までの間も、リーダーから声掛けがあり、参加者が手持無沙汰になりません。

「受付の隣に、今日見られる鳥のイラストや鳥が見られる場所を載せた資料を置いています。」

「初めての方は、ベテランの方に双眼鏡の使い方を教えてもらってくださいね。望遠鏡を持っている方はベテランの可能性が高いです。」

1 人のリーダーが声を掛けると、他のリーダーから

「こちらですよ。」

「私が教えますよ。」

と声があがり、スムーズな連携のもと、参加者との交流がうまれていました。

9 時を過ぎると、開始の挨拶がありました。A4 サイズのポケットファイルを紙芝居のように使って、「探鳥会の流れ」を伝え、「探鳥会」や「鳥合わせ」の言葉の意味も話されました。その後は、初心者約 30 名を 4 班に分け、各班 1 名のリーダーが案内をしました。

コースの道は、ヨシ原を見下ろしながら歩けるようになっていました。

「ヨシ原には、ご覧のようにいろんな種類の植物が生えています。水辺と草地があり、野鳥が多い環境です。」

と説明があり、観察がスタートしました。

水辺にはアオサギがおり、きれいなピンク色になった嘴を観察。観察しやすい目の前の木にはモズが現れ、しばらく留まっていたため、じっくり観察ができました。

子どもたちが多い班では、他の公園利用者とすれちがうときに、

「挨拶をしようね。」

とマナーも伝えていました。川で釣りをしている人がいると声をかけ、「鳥のエサ」でもある「オイカワ」を見せてもらっていました。ここでも子どもたちと一緒にきちんとお礼を言って立ち去りました。

▲観察の様子

探鳥会も終盤に差し掛かった頃、キジが間近に現れました。今日の「見たい鳥」としても広報されていたので、

「キジを見に来たんです。始めて見ました。」

「野生にこんなきれいな鳥がいたのね！」

とあちこちから感嘆の声があがっていました。

11 時 30 分頃から鳥合わせと会の紹介や入会の案内、アンケートの記入があり、12 時頃に終了となりました。

■参加者の声

30 代女性：数年前に「鳴き声ノート」に申込み、今回案内のメールをもらい初めて参加しました。日本野鳥の会のカタログでお勧めされていた双眼鏡を買って持ってきました。

■まとめ

つい当たり前になってしまいがちな言葉も丁寧に説明があったり、リーダーは「何でも聞いてね」と書かれた共通の腕章を付けたりと、初めての方への配慮が随所に感じられました。

終了後の反省会では、会員になってほしいというメッセージを如何に伝えていくかや、研修会の開催に向けても話が広がりました。会員増に対して積極的な熊本県支部の取り組みに、今後も注目していきたいと思います。

（普及室／堀本理華）

表2. 2016年度「会員を増やすための探鳥会」 結果一覧

	開催日	支部名	開催場所	天気	全参加者数	非会員数（全参加者に占める割合）	お試し入会者数（非会員参加者に占める割合）	初心者数（全参加者に占める割合）	リーダー数（1人のリーダーに対する参加者数）
No1	10/30(日)	群馬	波志江沼環境ふれあい公園	晴れ	25	20(80%)	3(15%)	18(72%)	6(4)
No2		大阪支部	狭山池	晴れ	28	27(96%)	0	23(82%)	13(2)
No3	11/6(日)	宮城県支部	仙台市博物館周辺及び青葉山公園内	晴れ	32	32(100%)	3(9%)	29(91%)	6(5)
No4		和歌山県支部	平池緑地公園	曇り	22	8(36%)	0	6(27%)	5(4)
No5	11/20(日)	宮崎県支部	平和台公園	曇り	24	17(71%)	3(18%)	13(54%)	5(5)
No6	11/23(水・祝)	秋田県支部	小泉潟公園	晴れ時々曇り	24	22(92%)	3(14%)	-	8(3)
No7		東京	代々木公園	曇り	40	32(80%)	1(3%)	20(50%)	5(8)
No8		滋賀	南郷(瀬田川洗堰周辺)	晴れ	20	11(55%)	5(45%)	11(55%)	6(3)
No9		奈良支部	平城宮跡・水上池	曇り	50	29(58%)	6(21%)	22(44%)	10(5)
No10	12/3(土)	奥多摩支部	昭和記念公園	晴れ	112	102(91%)	9(9%)	71(63%)	21(5)
No11		栃木	鳥野目河川公園	晴れ	25	19(76%)	1(5%)	10(40%)	8(3)
No12		千葉県	千葉公園	晴れ	29	24(83%)	11(46%)	18(62%)	13(2)
No13	12/10(土)	千葉県	柏の葉公園	晴れ	31	22(71%)	3(14%)	20(65%)	8(4)
No14	12/11(日)	埼玉	大宮公園	晴れ	59	51(86%)	20(39%)	49(83%)	16(4)
No15	12/17(土)	栃木	栃木県中央公園	晴れ	44	38(86%)	0	16(36%)	7(6)
No16	12/23(金・祝)	茨城県	乙戸沼公園	晴れ時々雨	9	9(100%)	2(22%)	6(67%)	5(2)
No17		京都支部	鴨川	曇り時々雨	14	14(100%)	6(43%)	14(100%)	7(2)
No18		諏訪支部	諏訪湖横河川河口	晴れ時々曇り	9	8(89%)	3(38%)	7(78%)	8(1)

No19	1/14(土)	栃木	羽田沼	雪後晴れ	27	17(63%)	5(29%)	7(26%)	7(4)
No20	1/21(土)	神奈川支部	追浜駅～野島公園	晴れ	29	28(97%)	3(11%)	21(72%)	6(5)
No21	1/28(土)	栃木	井頭公園	晴れ	58	51(88%)	2(4%)	18(31%)	9(6)
No22	1/29(日)	茨城県	かすみがうら市 雪入ふれあいの里公園	曇り	36	35(97%)	2(6%)	30(83%)	5(7)
No23		大阪支部	産湯稲荷神社(真田抜穴跡) ～天王寺公園(茶臼山)	曇り	52	36(69%)	0	34(65%)	15(3)
No24	2/5(日)	和歌山県支部	和歌山城公園	雨天中止					
No25	2/11(土・祝)	栃木	小山運動公園	晴れ	36	31(86%)	2(6%)	12(33%)	10(4)
No26		神奈川支部	山下公園	晴れ	69	66(96%)	12(18%)	52(75%)	7(5)
No27	2/25(土)	栃木	勝山公園	晴れ	38	34(89%)	3(9%)	15(39%)	6(6)
No28	2/26(日)	熊本県支部	下江津湖	晴れ	39	18(43%)	3(17%)	11(27%)	5(8)
No29	3/19(日)	熊本県支部	坪井川緑地公園	晴れ	40	27(68%)	4(15%)	14(35%)	5(8)

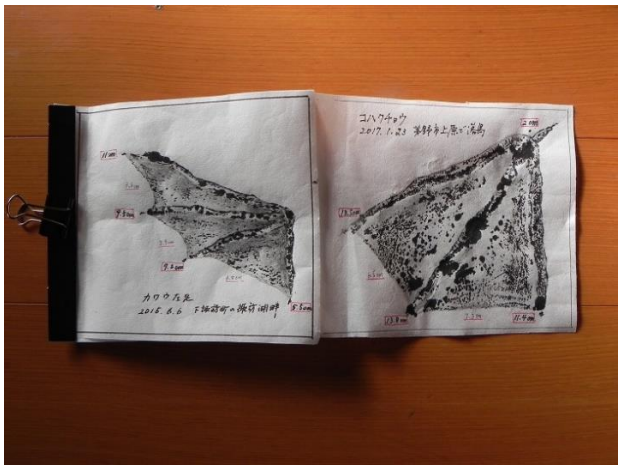
＊ 「初心者」は、これまでのバードウォッチング経験が「0回または1-3回」の方
＊ 次の回では、当日の正式入会がありました。No3:1人、No4:1人、No6:1人、No7:2人、No11:1人、No15:2人、No19:1人、No20 :1人、No21:1人、No25:2人、No27:3人

◆諏訪支部からの情報　「落鳥の命を教材に活かす！　後編」

３月号に引き続き、諏訪支部の林さんからいただいた情報を紹介いたします。

■趾（あし）

趾を見せる教材としては、魚拓ならぬ足拓が有効です。同じ水かきの蹼膜（ぼくまく）をもつ鳥でもカモ、カモメ・・など指３本にまたがるもの、カワウのように４本にまたがるものなどがあり、現地で「この機能の違いは何でしょう！」と考えて頂くのも良いかと思います。そのほかオオバンのように趾指の関節ごと弁膜（べんまく）のあるものなど様々です。こうした形状から種固有の生きざまが見えるため説明手段に有効です。



▲図３　足型を移しとった綴り

■羽

私はよく子どもたちから「冷たい水の中で、鳥はどうして寒くないの？」といった素朴な質問を受けることがあります。そこでそれを実感できる教材を作りました。

カモ類であれば胸から腹部の羽を皮膚ごと二枚いただき、一枚は表面に見える正羽をすべて抜き取ります。するとその下からは密生した厚みある見事な綿羽が現われます。上着姿からは想像もできなかった柔らかく温かな下着。この素晴らしい二重構造にも触れて機能の違いを感じて頂くことができます。その際、自分で発見したのですが、手の平側の指先より甲側の指先で触れる方が数倍も感じかたが大きいのに気付きました。現場ではこのことも皆さんに実感いただいています。

防寒システムでは他に鳥の平常温が高いこと、脚の血管には冷えた血液を体内に運び込まない熱交換システム（ワンダーネット）があることなどの説明を加えればより理解が深まることでしょう。

▲図４　ハクチョウの羽、左の羽の下にある綿羽（右）

■骨

活用の最後は骨についてです。私は飛べる鳥、飛べない鳥の説明にコハクチョウやダチョウの骨も使うことがあります。双方の骨の断面を示せば説明は不要。ハクチョウの骨の中空に対し、内部まで網目模様の骨がぎっしり詰まったダチョウの骨。また鳥特有の胸の中央に縦にのびた竜骨突起（一部の鳥にはない）、これも種類によっては意外です。ハクチョウ類ではこの突起の幅が厚いうえに正面から空洞に。この骨の孔に首元から延びた長い気管がすっぽり入り奥で U ターンし両肺につながっているのです。これは繁殖地の大湿原で声が良く響きわたる機能の一つだといいます。以上雑ぱくな説明ですが、教材は鳥の総合的な講座には極めて有効と考えます。いずれにしても鳥の部位使用は命の活用です。使わないところは土にかえしてあげましょう。

▲図５　竜骨（中央下）の孔は鳴きの共鳴板！

■惨たらしさを感じさせない工夫

最後に、これら実物の教材利用で心すべきことがあります。それは本物を見せるなかで「惨たらしさ」を感じさせない教材づくりの工夫です。特に部位の切断面には工夫を要します。私の場合、脚部は断面の周りの皮膚を寄せて縫合し断面を覆い隠します。羽の教材では皮膚の剥離面がある場合は、その面を厚紙に貼るなどして見えないようにします。羽１枚を見せて拒否反応を示す人はまずいませんが、数枚羽が張り付いた皮膚は、見る人によってはある種の感情を抱かせかねません。

実物利用の教材は、見せる対象がどんな人たちであるかも念頭に入れた対応が求められます。場合によっては見せる前に鳥の体の不思議さについて興味を高めてから、「ではお見せしましょう！」と、もったいぶることが必要かもしれません。素晴らしい鳥の機能を伝えるために、見せて触れる魅力を考えた探鳥会や講座を考えてみてはいかがでしょか。

（諏訪支部／林正敏）

◆日本野鳥の会千葉県のリーダーにインタビュー

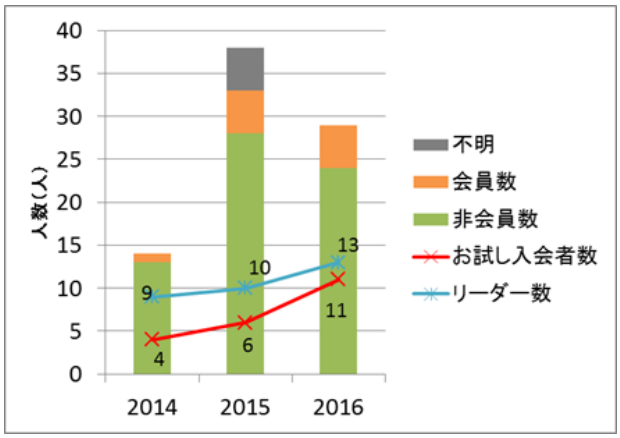
「千葉公園ビギナーズ探鳥会でお試し入会が多かった理由とは？」

■はじめに

2016年12月の千葉公園でのビギナーズ探鳥会のお試し入会率は 46%と非常に高い割合でした。その秘訣を知るべく、担当された日本野鳥の会千葉県（以下、千葉県）幹事の佐藤明雄さん・渡辺正之さんと、副会長の橋本了次さんにお話をうかがいました。（2017 年 3 月 11 日（土）船橋市市民活動サポートセンターにて／聞き手：財団普及室　箱田、堀本、江面）

■千葉公園ビギナーズ探鳥会の概要

2016 年 12 月 3 日（土）開催。千葉公園でのビギナーズ探鳥会は、2014 年、2015 年に続き、3 回目。2016 年の参加者は 29 名で、会員でない方が 24 名（子ども 3 名含む）。そのうち約半数の 11 名がお試し入会されました。リーダーは 13 人。※当日の様子は、2017 年 1 月号をご覧ください。
（http://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/staff201701.pdf）



▲千葉公園ビギナーズ探鳥会の参加者等推移

■インタビュー

Q. 今回の探鳥会で、特に配慮した点はありますか？

A.. 1 回目の時は、ビギナーズ探鳥会にはどのような方が参加するのか、全く分かりませんでしたが、回を重ねるごとに、参加者の様子が分かってきて、対策を立てることができるようになりました。

例えば、参加者の多くは、持参する双眼鏡が小型のものだったり、使い方を知らなかったりしました。そこで、2 回目からは、バードウォッチングに向いている双眼鏡を貸し出し、使い方の説明をしっかりするようにしました。また、参加者は、こちらが思っているよりも「初心者」であり、また、日本野鳥の会のこともご存じないということもわかったので、丁寧な説明を心がけました。特に、入会してもらうにも、支部がどんな団体かを知ってもらうことが大切と考え、千葉県は、野鳥を見て楽しむと共に自然保護団体である事をご理解して頂き、それにより、野鳥を守る活動をしていると伝えるようにしました。

Q. 探鳥会全体のペース配分は？

A. 10 時に千葉駅で集合し、徒歩 7・8 分で公園に到着。その後、始めのあいさつに 5 分、双眼鏡の説明に 3 分。観察はトイレ休憩を含めて 1 時間半。最後に鳥あわせとお試しの説明で 15 分。終了予定時刻の 12 時前には解散するように心がけました。

Q. お試し入会の説明で工夫したことはありますか？

A.．まず、探鳥会の始めのあいさつの時には、お試し入会の具体的な説明はしません。ただ、「お得な情報をもってきました」とだけ言いました。そして、鳥あわせ後に、具体的にお試し入会について説明しました。

説明では、お試し入会が「お得」であることが分かるように工夫しました。お試し入会された方には、半年間で６回の支部報を送りますが、支部報には、県内の探鳥会案内や野鳥の記録が詳しく掲載されていて、野鳥の情報が満載ですと、伝えます。また、お試し入会の会費は 1,000 円で、支部報は１冊 300 円、それが６回郵送されてくると…と、具体的に伝える。そうすると、いかにお得かを想像してもらえるわけです。また、段取りも重要です。鳥あわせの後は、お試し入会の説明しかしないようにしました。終わったら帰りたいというのが参加者の本音。そのため、観察が終わって鳥あわせをする前に、貸し出した双眼鏡はすべて回収しておきました。解散後、お試し入会の手続きと双眼鏡の回収が同時に行われ、ばたついてしまうのを避けました。また、通常の探鳥会では、次の探鳥会の案内をすることが多いですが、それもあえて省きました。入会した人には支部報で探鳥会の案内が届きますから。

今回の探鳥会では、お試し入会の説明の後、その場で「入会希望者は前で来て受付をしてください」と呼びかけました。すると、最前列の方が前に出てこられ、それに触発されるように次々と希望者が集まってきました。その後、何回かリーダーから「お得な機会ですよ」呼びかけたところ、さらにぱらぱらと希望者が集まりました。参加者の中には、手を挙げにくい人や、迷っている人もいるので、そこを後押しするきっかけがあったことが良かったのではないかと思います。

▲お試し入会の説明をする佐藤さん。

Q.．リーダーの参加も毎回増加傾向です。どのように呼びかけたのでしょうか？

A.．参加者１組（家族や友達同士など）に１人のリーダーを目指して、メールで呼びかけました。結果的に 13 人のリーダーが集まり、参加者全体に丁寧な解説ができる体制がとれました。リーダーが多いと、ただ鳥がいたというだけではなく、行動や模様など詳しく説明できるので、参加者も楽しく観察してもらえると思います。また、リーダーの中にビギナーズ探鳥会が浸透してきたこともあります。さらに、昨年６月の研修会が効果的だったと感じています。

Q.．その研修会とはどのようなものだったのでしょうか？

A.．千葉県はここ数年財政的に厳しく、それを改善するには会員を増やすしかないという意見が幹事会で出るようになりました。そこで、2016 年６月に研修会を開き、会員をいかに増やせるか、というテーマでの議論に時間を割きました。それがきっかけで、みんなの意識が変わったのではないでしょうか。その研修会には、千葉県の 55 名のリーダーのうち 33 名が参加していました。※研修会の様子は、2016 年７月号をご覧ください。
（http://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/staff201607.pdf）

■インタビューを終えて

お話をうかがって、高いお試し入会率の背景には、大きく二つの要因があったのではないかと考えました。ひとつは、参加者をよく知り、参加者の気持ちを考えることです。ビギナーズ探鳥会の参加者は、通常の探鳥会の参加者とは、バードウォッチングの経験が大きく異なることを念頭において工夫をされていました。また、参加者の気持ちに配慮した段取りも工夫されていました。二つ目は、リーダー間での意識の共有です。支部の幹事の間で、会員を増やそうという想いを共有し、取り組まれていました。

「探鳥会スタッフ通信」では、全国の探鳥会がレベルアップしていけるよう、今後も各地のよい事例を紹介していきたいと思っています。千葉県のみなさま、ご協力いただきありがとうございました。

（普及室／江面康子）

◆探鳥会保険集計結果（2017 年２月分）

２月は 66 支部からご報告をいただき、計 255 回の探鳥会が開催され、のべ 6,754 人が参加されました。

表 3. ２月の探鳥会保険集計結果（2017 年３月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	1	17	2	1	20
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	−	−	−	−	−
十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	1	11	3	2	16
道北支部	1	1	5	2	8
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	2	77	37	6	120
小樽支部	2	8	7	2	17
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	1	20	6	3	29
函館支部	−	−	−	−	−
道南桧山	1	6	1	2	9
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	2	9	2	2	13
秋田県支部	5	72	12	8	92
山形県支部	1	12	4	1	17
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	0	0	0	0	0
北上支部	1	11	0	4	15
宮城県支部	3	33	13	7	53
ふくしま	2	49	4	3	56
郡山支部	1	22	1	2	25
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	1	1	0	5	6
会津支部	1	4	2	2	8
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	19	2	1	22
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	11	150	78	19	247
栃木	−	−	−	−	−
群馬	6	58	36	22	116
吾妻	1	17	0	2	19
埼玉	18	442	151	125	718
千葉県	11	142	49	42	233
東京	14	644	41	67	752
奥多摩支部	17	252	62	64	378
神奈川支部	13	205	77	40	322
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	2	38	17	2	57
石川	2	30	10	5	45
福井県	1	0	0	7	7
長野支部	2	31	10	4	45
軽井沢支部	1	9	8	1	18
諏訪支部	1	8	13	2	23
木曽支部	-	-	-	-	-
伊那谷支部	0	0	0	0	0
甲府支部	1	26	4	2	32
富士山麓支部	1	4	0	3	7
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	1	20	1	2	23
南富士支部	2	77	19	3	99
南伊豆	1	9	0	2	11
静岡支部	3	33	3	7	43
遠江	4	91	25	14	130
愛知県支部	14	255	187	36	478
岐阜	-	-	-	-	-
三重	1	8	9	2	19
奈良支部	5	119	7	10	136
和歌山県支部	1	3	17	5	25
滋賀	5	29	55	11	95
京都支部	7	117	26	17	160
大阪支部	21	424	76	91	591
ひょうご	6	75	44	16	135
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	2	23	3	2	28
島根県支部	2	9	6	2	17
岡山県支部	4	115	40	10	165
広島県支部	3	46	30	11	87
山口県支部	2	16	3	2	21
香川県支部	3	124	33	5	162
徳島県支部	5	63	19	5	87
高知支部	2	22	30	2	54
愛媛	4	47	38	7	92
北九州支部	3	29	5	3	37
福岡支部	7	100	38	13	151
筑豊支部	4	56	15	4	75
筑後支部	-	-	-	-	-
佐賀県支部	3	58	12	4	74
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	5	60	28	7	95
大分県支部	1	17	13	1	31
宮崎県支部	3	25	1	3	29
鹿児島	2	23	30	6	59
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	-	-	-	-	-
全国	255	4521	1470	763	6754

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■2016 年度　探鳥会リーダーズフォーラム東日本　報告書（概要版）■

1/28-29 に探鳥会リーダーズフォーラム東日本を開催しました（東京都八王子市）。今回は、10/29-30 に西日本版を開催したこともあり、いつもよりも少なめの参加者での開催となりましたが、その分、分科会では密度の濃い議論が展開されました。

ここでは「概要版」としてご報告させていただき、「詳細版」の報告書をご希望の方は「詳細版希望」と明記の上、tancho-staff@wbsj.org までご連絡ください。（参加者の方には別途お送りいたします。）

＜日　時＞ 2017 年 1 月 28 日（土）13:30
～29 日（日）12:00
＜主　催＞ （公財）日本野鳥の会　普及室
＜旅行実施＞ （株）南海国際旅行
＜会　場＞ 八王子セミナーハウス（東京都八王子市）
＜参 加 者＞ 24 名
＜参加支部＞宮城県支部、ふくしま、東京、神奈川支部、埼玉、栃木、奥多摩支部、京都支部、佐賀県支部（9 支部）
＜スタッフ＞ 10 名
＜スケジュール＞
28 日 13:30 オリエンテーション
13:45 アイスブレイキング
14:15 ワールドカフェ
「探鳥会を考えよう」
16:00 分科会 A（120 分）
18:30 夕食
19:30 懇親会
30 日 7:30　朝食
8:45　分科会 B（90 分）
10:30　クロージング
12:00　終了

◆分科会◆
①　『入会につながるインターネット活用術』
【企画者】手塚／栃木
【参加者】16 名（7 支部）
【内　容】
この分科会は、西日本に続いて各支部のインターネット活用の事例と運用上の問題点を共有するために実施した。
1）「ホームページ運営の工夫について」
はじめに財団のホームページ（以下 HP）担当の三浦（会員室）より、SNS と HP の違いの他、検索で上位に表示される HP づくりの工夫、財団の Facebook（以下 FB）の活用法など、知っておくと役に立つインターネットの活用法について紹介された。ここでは、HP を持っていない支部はまず HP を整備した方がよいということが強調された。ブログで代用している支部も多いが、できれば HP を作った方がよいということ、HP は支部の概要を伝える「看板」のような機能であり、記事が時系列で連続的に流れていくブログや FB よりも適していることなどが説明された。

さらに HP は、スマートフォン（以下スマホ）対応機能が不可欠となってきていることも強調された。最近ではテレビを見ながらスマホで何かしら検索をしている人が多く、財団 HP の場合、半分近くがスマホで閲覧されている。
2）「入会につながるインターネット活用術」
栃木の手塚さんより、HP から探鳥会参加へ繋げ、会員数を増やしている事例について報告された。手塚さんの経験上、ホームページは複数の人で管理できるように、シンプルで使いやすい、しかも無料の HP 作成サービスとして、「JIMDO」が紹介された。
3）質疑応答
財団と栃木からの報告に加えて事前の分科会アンケートの結果について紹介し、これをもとにインターネット活用に関する全体的な議論を行った。
また、西日本のメンバーと東日本のメンバーを加え、インターネット広報に関して相互に相談しあえるメーリングリストを立ち上げるこ

とになった。

② 『野鳥の行動観察から
環境保全を目指す探鳥会』
【企画者】石井／神奈川支部
【参加者】13 名（4 支部）
【内　容】
神奈川支部では、1977 年から県内の鳥の分布と行動の情報データベースを作っている。
この分科会は、神奈川支部の取り組みをモデルに全国に広げ、生物多様性保全のための取り組みを広げられないかという主旨で企画された。

冒頭に、神奈川支部の石井さんから、神奈川支部で実施した野鳥の行動観察データベースづくりとカタログ探鳥会の説明があった。カタログ探鳥会とは、目録の分布情報作成のための探鳥会で、目録の記録情報が少ないエリアを選んで開催された。探鳥会で目録カードを配布し、観察記入後にカードを回収するというものだった。
事例報告の後、探鳥会の主眼を「野鳥の識別」から「行動観察」へシフトし、全国的な野鳥の行動データベースを作成しようという提案があった。
質疑と意見交換では、「多くの野鳥を観察する」「識別する」という視点ではなく「行動を観察する」という視点が、どの程度会員のニーズに合うのか、会員への広がりを懸念する声があった。その他「行動観察」は、鳥が食べていた木の実の識別など広範囲な知識を必要とするため、データの精度をどのように維持するかという議論や、「行動観察」のデータは公園の管理方法へのアドバイスに有効に使えるといった意見もあった。
一方で、全国展開の足掛かりとしては、すでにいくつかの支部で鳥類目録を発行しているところがあり、こうした支部の取り組み状況を把握し、横の連携を作りながら全国展開に向けた働きかけてしてはどうかといった意見があった。

③ 『川の上流から下流までを
探鳥会でつなごう！たまりゅう
（多摩川流域合同探鳥会）のご紹介』
【企画者】黒田／神奈川支部、蒲谷／奥多摩支部
【参加者】８名（３支部）
【内　容】

多摩川流域合同探鳥会（以下、「たまりゅう」）は、奥多摩支部、東京、神奈川支部をまたぐ多摩川を舞台に、複数の支部の協働探鳥会で、2015 年から始まった。
初年度は奥多摩支部と神奈川支部の２支部で、上流から下流に向かって全５回の探鳥会を企画した。2016 年度は、これに東京を加えた 3 支部で下流から上流に向かって開催された。
そもそもの動機は、「他支部の探鳥会に参加してみたい」「支部間の交流を進め、支部の空気を変えたい」「探鳥会のマンネリ化を防ぎたい」「開発問題が発生した時に、複数の支部で同じ体温をもって活動できる土台をつくりたい」というところからはじまった。
しかし、合同探鳥会の企画は思った以上に難しく、初年度は開催までに一年を要した。主催、日程、場所をどうするか？名簿の書式、参加費の設定など細々とした調整ごとが満載で、メールや直接会って打ち合わせを重ねていった。
各支部から３名ずつの幹事で６名の委員会を組織し、上流、中流、下流と、多様な環境を見ること、アクセスのよさを考えて５か所の探鳥地を選定した。遠方からの参加を考え開始時刻を 10 時に設定、名簿の書式や保険金額はその探鳥地を担当する支部に合わせて実施した。また、専用野鳥チェックリスト、５回の探鳥会で観察できた野鳥が一目でわかるしおり、チラシやパンフレットなど、小道具にも凝った。
実施後は「他支部の探鳥会に参加することで、自分の支部の良さがよく分かった」「お互いの

支部探鳥会を紹介しあうことができて良かった」等の感想が聞かれた。
　一方で運営については「参加者が 70～80 人になり説明の声が聞こえない」「遠方の方が参加するので、天候判断と中止の告知方法をどうするか？」等の問題もあった。
　最後に、こうした支部合同探鳥会は、お互いの支部報でのみ告知することで、新たな会員サービスの創出につながること、支部間でお互い入会しあう効果が期待でき、会員減に対する対策として期待できるのではないかという意見があった。

④　『営業のプロが伝授！
　　参加者が入会したくなる探鳥会運営』
【企画者】樋口／神奈川支部
【参加者】14 名（7 支部）
【内　容】
　入会の勧誘というと、その人のキャラクターなど、俗人的な要素が強いというイメージがあるが、勧誘は万人が真似できるノウハウであり、これを共有化することで、探鳥会での入会率をあげることができる。この分科会はそのような意図で企画された。
　最初に神奈川支部の樋口さんから「マインドフロー」という考え方を説明していただいた。参加者が入会に至るまでには、7 つの心理的ステップが存在し、それをクリアしていく必要がある。こうしたアプローチを「マインドフロー」と呼び、営業の現場で広く応用されている理論だ。ここでは、参加者が「お試し入会する」ことをゴール（＝購買）にした探鳥会運営が紹介された。
1）「認知」－冒頭にお試し入会の制度を告知する。
2）「興味」－お試し入会にお客様が興味を持つ。
3）「行動」－探鳥会に参加した時点で 2）、3）はある程度クリアしている。
4）「比較」－入会しない場合とする場合を比較して、入会を検討してもらうステップ。
　探鳥会では、鳥の説明だけでは入会してくれない。具体的に入会を働きかけて、入会することを検討してもらう必要がある。例えば、「入会して、探鳥会に参加して鳥を見ること」と「図鑑やネットを頼りに入会せずに鳥を見ること」を比較し、どちらにしようか具体的に検討できるように説明することが重要である。そこで、入会すると会報が届き探鳥会の情報が得られること、友達ができて世界が広がること、会費を払うことで守ることにも貢献できることなどを説明することになる。
　検討時間は長い方が決断に結びつきやすい。そのためお試し入会の告知は探鳥会の冒頭に行う。
5）「お試し入会」
　ここでは入会の申し込みづらさ、手間や不安感を減らすことがポイントになる。お金の授受に手間取ったり、帰りの時間が迫っていたりすると入会してくれない。段取りを整理し、領収書は先に作っておき、申し込みの時間を確保すること。また、リーダー1 人当たり 5～6 人の班編成で、最後の勧誘までこの班で行うことも重要。
※埼玉県支部のリーダー研修で標記のテーマで樋口氏が講義されたときの DVD をご希望の方に郵送いたします。「DVD 希望」と明記の上、・住所・氏名・電話番号を tancho-staff@wbsj.org まで。
　質疑応答では「一回の探鳥会で入会してもらうのは難しい。まずはリピーターを増やすことが大切。」「班を小分けにしたところ、こちらの対応からこぼれてしまう参加者がなくなった。」「班ごとに勧誘するためには、リーダー向けの勧誘マニュアルが必要になる。栃木、神奈川で現在マニュアルを試行中。」といった感想や意見があった。

⑤　『有明海の現状とラムサール条約』
【企画者】中村／佐賀県支部
【参加者】7 名（3 支部）
【内　容】
　福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県の 4 県が面する九州最大の干潟を持つ有明海。佐賀県支部では月 1 回以上の探鳥会で、ラムサール条約に登録されてからは、参加者は増加傾向にある。佐賀県支部として、鹿島市嘱託職員として有明海の保全と活用に携わる中村さんの呼びかけで、有明海の保全のためにバードウォッチャーに何ができるかを考える分科会を開催した。

まず冒頭に中村さんから、有明海の特徴的な生物相や漁業について、干潟の保全上問題となっている懸念についてお話があった。

1）漁獲量が減少し続けていること。
海の環境悪化が原因。以前は専業の漁師もたくさんいたが、今はいない。

2）カモによる海苔の食害が増えていること
カモ類による海苔の食害や羽が海苔に混入し、品質低下が問題となっている。

3）人々が有明海に関心をなくしていること
貝類が獲れなくなり干潟に入る人は皆無。諫早湾干拓事業の裁判の影響もある。

次にラムサール条約に登録したことで保全上プラスになったこととして以下の点が紹介された。

1）荒尾市、佐賀市、鹿島市の担当者が、常に連携が取れるようになった。
2）佐賀県支部と熊本県支部の交流が増えた。
3）行政や NPO が主催し、有明海に関するイベントや講演会が行われるようになった。
4）佐賀市、鹿島市では、子ども向けの環境教育が盛んになった。
5）行政では、有明海の干潟保全に関する予算がとりやすくなった。

最後に有明海の保全のためにバードウォッチャーに何ができるかを話し合った。カモの食害が問題となってはいるが、バードウォッチャーと漁業者との軋轢はない。むしろ佐賀市ではバードウォチャーを誘致したい思惑がある。また食害はデータで議論する必要があるが、カモの数の変動はわかっていない。九州の支部が連携して調査する必要があり、多くのバードウォッチャーの協力が求められている。

日本野鳥の会のネットワークを生かして、有明海の干潟にバードウォッチングに行って感想を SNS で発信したり、ビジターセンター建設に役立つアイディアを佐賀県支部に伝えてほしい。今後、全国各地の探鳥地や保全すべき場所に対して同様の支援ができるとよいという意見があった。

◆まとめ◆

今回のリーダーズフォーラムは新たなテーマも加わり、広範囲かつ深い内容の会となりました。

まず、「入会につながるインターネット活用術入門分科会」は、問題意識のある人の横のつながりができました。分科会に参加されていた宮城県支部では、さっそく栃木の手塚さんにアドバイスを得てHPの作成に着手されたそうです。

「たまりゅう（多摩川流域合同探鳥会）分科会」は、近隣支部が協働することで、単体の支部ではできない「広域型会員サービス」の事例でした。同時に「流域」という大きな自然の塊を認識する手法としても注目したい取り組みです。

「野鳥の行動観察から環境保全を目指す分科会」は、「会員が全国いたるところで鳥を見ている」という当会の特性を、社会に生かせないかという発想からきているテーマだと思います。目録を発行している支部との議論から、全国展開に向けた足がかりが見えてくることを期待しています。

「参加者が入会したくなる探鳥会運営分科会」では、分科会の参加者は、口々に「刺激になった」「目からウロコが落ちた」とおっしゃっていました。「鳥の魅力を伝えること」と「会の魅力を伝えて入会を促すこと」は別のことです。「後者の研究を深めることで会員は増える。」おそらくこの分科会に参加された方々はそう確信されたと思います。京都支部のリーダーが、さっそく地元の探鳥会で実践し、成果を上げているとの情報が入ってきています。

「有明海の分科会」は、ラムサール条約登録湿地を持つ地域の地域おこしをバードウォッチングという切り口から考えてみようというものでした。全国には、自然やバードウォッチングを観光の目玉にと考えている地域が他にもあります。そうした地域を会員やバードウォッチャーに呼び掛けて応援していく取り組みが今後も生まれていくとよいと思いました。

2017 年度も探鳥会リーダーズフォーラムを開催する予定です。全国の支部と財団が一緒に日本野鳥の会の探鳥会活動を作っていく場を作っていきたいと思いますので、まだ参加したことのない方はぜひご参加ください。もちろんリピーターの方もお待ちしております。

（普及室／箱田敦只）

■2017 年度
「野鳥の子育て応援（ヒナを拾わないで）キャンペーン」が始まります■

野鳥の子育ての季節に、人によるヒナの誤った保護を防ぐために続けてきた当キャンペーン。今年で 23 回目を迎えますが、毎年問い合わせが途絶えることはありません。このキャンペーンが人と野生生物との関わりを考える機会になるよう、皆様のご協力をお願いいたします。

＜ポスター掲示にご協力お願いします＞

（公財）日本鳥類保護連盟、NPO 法人野生動物救護獣医師会と共同でポスターを制作し、全国の幼稚園、学校、図書館などに掲示をお願いしています。３月下旬に、全連携団体（支部）宛てに 20 枚ずつお送りしますので、皆様のお住まいの地域の掲示板や施設等で掲示にご協力いただける場所がありましたら、掲示をお願いいたします。ポスターの追加送付のご希望もお待ちしております。なお、ポスターは、４月以降、当会ホームページからダウンロードもしていただけます。

＜紙芝居や小冊子をご活用ください＞

ヒナを拾わないことは野鳥のためになることを伝える紙芝居『わたしのことり』、地面にいるヒナへの対処方法を解説した小冊子『ヒナとの関わり方がわかるハンドブック』をご用意しています。野鳥の子育ての時期にぜひご活用ください。詳しくは、当会ホームページでご確認いただくか、以下までお問合せをお願いいたします。

＜お申込み・問い合わせ先＞

日本野鳥の会　普及室　　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-9-23　丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：nature@wbsj.org
ホームページ：
日本野鳥の会　ヒナを拾わないで で検索

■バードウィーク全国一斉探鳥会を広報します■

バードウィーク全国一斉探鳥会情報のご提供ありがとうございました。財団は以下の広報を実施しますのでお知らせいたします。

（１）「探鳥会のご案内」送付

３月下旬に、パンフレット「探鳥会のご案内」を東日本（北海道、東北地方、関東地方、長野、山梨、静岡）50,000 名、西日本（新潟、富山、岐阜、石川、愛知、福井、近畿地方、中国四国地方、九州沖縄地方）25,000 名の非会員（小冊子申込者等）に送付しました。

（２）財団 HP 上に特設ページ開設

財団 HP 内に、以下のページを公開しています。

・バードウィーク全国一斉探鳥会のご案内（5/7-5/14 開催）
http://www.wbsj.org/activity/event/isseitancho2017/

（３）一斉メール送信

４月下旬に全国約４万人（小冊子申込者等）に送信予定です。

（４）野鳥誌

野鳥誌５月号へ掲載します。

＜効果測定へのご協力のお願い＞
　財団では、探鳥会のご案内や一斉メール送信による広報の効果を測りたいと考えています。今回情報をご提供いただいた観察会について、当日の参加者の「お名前」をメール（　tancho-staff@wbsj.org　）か FAX（03-5436-2635）でお送りいただけますと幸いです。なおお送りいただく際は、メールの場合は、エクセルにパスワードをかけ、パスワードを別送してください。FAX の場合は、送信前に普及教育グループ（TEL03-5436-2622）にご一報ください。
　ご協力よろしくお願いいたします。

▲探鳥会のご案内表紙（左：東日本版、右：西日本版）

■2017 年「ツバメのねぐら入り観察会」の情報をお寄せください■

　今年も、野鳥初心者にも関心を持ってもらいやすい「ツバメのねぐら入り観察会」を集約して広報し、一般の方が野鳥や当会に関心を持つきっかけになる場づくりをしたいと考えております。4 月 6 日に各支部事務局宛に 2017 年「ツバメのねぐら入り観察会」情報のご提供に関する書類をお送りいたしました。
　広報を希望される観察会がありましたら、5 月 7 日（日）までに、Email または FAX、郵送で財団普及室までお知らせください。
　とりまとめた探鳥会の情報は、ホームページやパンフレット「探鳥会のご案内」（6 月下旬発行）、メール送信等で広報し、特に一般の方に参加を呼び掛けます。（野鳥誌 7 月号にも掲載予定です）

【記入例】

	ツバメのねぐらマップ
希望部数	50 部
送り先	支部事務局

	掲載内容
タイトル	ツバメのねぐら入り観察会
都道府県	東京都
開催場所	多摩川中流域河川敷
所在	東京都府中市
交通	新宿から京王線で約 30 分（府中で特急から各駅に乗り換え）
ＰＲ	約 30,000 羽のツバメの大規模なねぐら入りが観察できます
開催日	2017 年 7 月 22 日（土）
主催	日本野鳥の会〇〇
参加費	無料
集合時間・場所	18:00 ／京王電鉄中河原駅北口集合
解散時間･場所	20:00 ／上記解散
持ち物	虫除け対策、懐中電灯
備考	要事前申し込み（7/15 までに、参加者のお名前、ご住所、お電話番号、 メールアドレスを、メール〇〇にてお知らせください）、雨天中止

【送付先】
E-mail：tancho@wbsj.org
FAX：03-5436-2635
住所：〒141-0031
品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
（公財）日本野鳥の会　普及室　堀本または関宛
【締切】５月７日（日）

■連携団体（支部等）向け卸販売について■

「探鳥会で図鑑が買いたい」「野鳥グッズがほしい」など、探鳥会の参加者や会員の皆さんからのご要望はありませんか？

「連携団体（支部等）」（以下、連携団体）向け卸販売は、当会通販カタログに掲載している商品を、卸価格にて連携団体へご提供するしくみです。

仕入れた商品を連携団体で販売することで、探鳥会の参加者が図鑑や双眼鏡などバードウォッチングに必要な道具をその場で買えるようになり、サービスの向上につながります。さらに、売上は連携団体の収入になります。例えば、『新・山野の鳥 改訂版』の場合は、１冊130円が、双眼鏡の場合は、500～5,000円程度が連携団体の収入になります。

販売を通じてバードウォッチングの輪が広まるとともに、その販売収益が連携団体の活動の一助となれば幸いです。

▲連携団体での販売の様子（日本野鳥の会遠江の探鳥会にて）

●対象商品

原則、連携団体向け卸販売の対象商品は、通販カタログ「バードショップ」に掲載している商品、かつ、カタログ有効期間中にご注文いただいたものに限られます。過去のカタログ等に掲載された商品は対象外となりますのでご承知おきください。

●ご注文方法

・通販カタログ「バードショップ」等を発行する毎に、各連携団体販売事業ご担当者様宛に、財団事務局より販売のご案内をお送りしています。商品や注文方法の詳細は、各連携団体の販売事業ご担当者様にお問い合わせください。
・ご注文の際は、できる限り専用の注文用紙（財団事務局作成）をご利用ください。用紙をご希望の方、データでご入用の方は下記までお問い合わせください。

●連携団体向け卸販売についてお問い合わせ
普及室　販売出版グループまでお願いいたします。
TEL：03-5436-2623
FAX：03-5436-2636
メール：r-hanbai@wbsj.org

（普及室／嶋村早樹）

◆今月の購読者

探鳥会スタッフ通信４月号の電子メール版の購読者数は、先月と変わらず 869 名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表４．探鳥会スタッフ通信４月号電子メール版の購読者数（2017 年４月 13 日現在）

支部	購読者数
小清水	1
オホーツク支部	6
根室支部	0
釧路支部	2
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70
旭川支部	4
滝川支部	1
道北支部	1
江別支部	0
札幌支部	4
小樽支部	3
苫小牧支部	2
室蘭支部	5
函館支部	0
道南桧山	2
青森県支部	1
弘前支部	4
秋田県支部	3
山形県支部	5
宮古支部	1
もりおか	5
北上支部	2
宮城県支部	39
ふくしま	4
郡山支部	1
二本松	1
白河支部	2
会津支部	2
奥会津連合	0
いわき支部	1
福島県相双支部	0
南相馬	0
茨城県	21
栃木	54
群馬	25
吾妻	1
埼玉	39
千葉県	21
東京	61
奥多摩支部	47
神奈川支部	21
新潟県	2
佐渡支部	1
富山	3
石川	29

支部	購読者数
福井県	10
長野支部	2
軽井沢支部	2
諏訪支部	5
木曽支部	1
伊那谷支部	1
甲府支部	4
富士山麓支部	0
東富士	0
沼津支部	3
南富士支部	2
南伊豆	2
静岡支部	2
遠江	12
愛知県支部	33
岐阜	5
三重	19
奈良支部	3
和歌山県支部	5
滋賀	19
京都支部	31
大阪支部	26
ひょうご	18
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	10
島根県支部	10
岡山県支部	25
広島県支部	8
山口県支部	4
香川県支部	6
徳島県支部	6
高知支部	1
愛媛	13
北九州	12
福岡支部	11
筑豊支部	21
筑後支部	6
佐賀県支部	5
長崎県支部	1
熊本県支部	14
大分県支部	4
宮崎県支部	4
鹿児島	3
やんばる支部	0
石垣島支部	1
西表支部	2
合計	869

訂正）３月号の大阪支部、鳥取県支部、岡山県支部の購読者数に誤りがありました。今月号で訂正しています。

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

今月より編集を担当させていただくことになり、この通信の編集が私にとって財団での初めてのまとまった仕事となりました。これから、どうぞよろしくお願いいたします。

少し前まで緊張でドキドキしながら桜を眺めていましたが、もうすぐ夏鳥の季節が始まりますね。小冊子の配布やヒナを拾わないでキャンペーンなど、いろいろな取り組みが動き始めます。支部の方々も探鳥会の準備でお忙しいことと思います。たくさんの方々に楽しんでいただけますように。

（普及室／井上奈津美）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第 49 号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2017 年 4 月 14 日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org